



中L研だより

令和6年度 9月号 発行 中学校LD等支援教育研究会



～ 中L研夏季研修会 ～

8月6日（火）、下京中学校にて夏季研修会を行いました。
夏休みで暑い中でしたが、たくさんの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。

第一部 個別の指導計画についての研究報告

研修会に先立ち、中L研部会長の栗陵中学校石田裕之校長よりご挨拶の後、大宅中学校通級担当の堀野大輔先生より、中L研「個別の指導計画」研究部会が作成している「個別の指導計画」について報告がありました。既存の様式を基に、より一層児童生徒のために活用できるように考えられています。

報告の内容は以下の通りです。



① 個別の指導計画の様式変更のポイント

- ◆生徒の変化・変容を一目で振り返れるように、3年間で1つのものを作成する。
- ◆学習面（9教科）の記入欄を1つにする。

② 個別の指導計画の円滑な運用について

- ◆個別の指導計画についての研修会の実施。
- ◆『こんな困りにはこんな支援リスト』の活用。
- ◆個別の指導計画の内容を協議・共有するための学年会の設定。



③ 個別の指導計画（中L研版）を活用していただいている学校の先生の声

- ◆「ただ作ることだけに時間が取られる『書類』であったものが、シンプルになり、本来の趣旨である共有に向けて取り組んでいる。」
- ◆「支援リストは具体的な支援方法が分からない先生にとってありがたいものになっている。」

個別の指導計画は学習面や生活面に支援を必要とする児童生徒の指導目標や内容、方法を具体化したもので、すなわち児童生徒を理解するためのツールと言えます。今後も、子どもを中心に個別の指導計画の研究を重ねてまいります。

中L研版の個別の指導計画についてのお問い合わせは、大宅中学校の堀野先生までお願いいたします。

第二部 講演『ユニバーサルデザイン授業と教育の今日的課題』

第二部では講師として、京都教育大学総合教育臨床センター長の相澤雅文教授をお招きし、『ユニバーサルデザイン授業と教育の今日的課題』について講演していただきました。ユニバーサルデザインとは、障害の有無や年齢、性別、人種などに関わらず、多くの人々が利用しやすいように物や環境をデザインする考え方です。ユニバーサルデザインの授業では、「気になる」子への特別の配慮ではなく、「すべて」の子にとってプラスになることを目指し、授業の構成を「簡素化」「明確化」「視覚化」「共有化」することが必要であることが分かりました。そのための9つのポイントをご紹介します。



① 構造化する

「いつ」「どこで」「何を」「どのように」すればいいのかが分かりやすくすること。

例：視覚的な情報提供、教室等の空間を目的毎に分ける、合理的に分かりやすく配置する 等

② 刺激に対する配慮

刺激（情報）を整理し、集中して取り組めるような環境整備

例：視覚刺激の整理、聴覚刺激の整理、人的刺激の整理

③ ルールの確立

集団生活のルールを分かりやすく示し、共有することで生活がしやすくなる。

例：プリントや板書等のルールを統一する

④ 生活の見通しを明確にする

「これから何をすればいいのか」「自分は今、何に向かっているのか」を視覚的に分かりやすく示す。

例：週間予定、一日の流れ、その時間の活動内容 等

⑤ 授業の見通しをもつこと

授業の流れをパターン化し、「いつまでに何をするのか」「どこまでやれば終わりなのか」など視覚的・具体的に示す。

例：授業の流れの掲示、残り時間の表示 等

⑥ 授業の組み立てを考える

学習活動にまとまりをつくり、メリハリをつけることで集中力や意欲を保つ工夫をする

例：一斉指導とペア・グループ学習の組み合わせ、音読、小テスト、フラッシュカード、クイズ 等

⑦ 板書・提示方法を工夫する

板書の目的は、視覚的な情報により文脈を理解し、思考を深めることである。

例：めあての明示、授業の全体像と流れの視覚化、学習内容の明確化、適宜確認できる、色やライン 等

⑧ 個人差への配慮

必要であれば「いつでも誰でも受けられる支援や配慮」と考えることが大切

例：話すスピード、字の大きさ、分かりやすい説明、教室の環境 等

⑨ 学級モラル・人間関係の形成

日頃からお互いの個性を認め合う風土が培われること、児童生徒が「価値の多様さ」に気付けることが大切

例：助け合いや認め合いの場面の設定、集会や学級通信の活用、協働出来る機会の設定 等